

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校定時制

校長名：宮本 裕司

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

・教育活動を通して、社会におけるルールやマナーなど社会生活に必要な社会性を養う。

・社会的自立に向けた基礎学力やコミュニケーション能力を身に付け、適切な職業観・労働観を持ち、地域社会に貢献できる資質・能力を育成する。

・学校生活を通じて、自己肯定感、自己有用感を高め、互いの多様性を認め合い協働することができる姿勢を育成する。

・平和で民主的、持続可能な社会の形成に向けて、主体的に参画できる資質・能力を育む。

学校評価の公表方法

・育友会総会等を通じて保護者への周知を図る。

・ホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月25日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	・生徒の多様な状況に応じた教育を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。	B	・生徒の多様な状況に応じた授業を工夫し、達成感や自己肯定感を養うことに取り組む。	・達成感や自己肯定感を養う授業を実施する。 ・単位取得率の向上を目指し、卒業率90%を目指す。【生徒の授業評価、卒業率】	A	生徒の多様な状況に応じた授業を展開した。卒業率は90%を超え、目標値を達成した。	生徒支援部内に通級指導班を設置することで体制を確立させる。また通級指導委員会に学年主任と担任が関わるようにする。
			・教育内容を精選し、社会貢献や実社会で役立つ学力の向上に取り組む。	卒業後に自立した市民として役立つ力を育む授業を実施する。	B	通級指導委員会を立ち上げ、指導の体制作りに努めた。9月から通級による指導を開始し、体制の確立を目指している。	
			・通級による指導の充実を図る。	【通級による指導の体制の確立】	A	公開授業を11月に実施し、授業改善のきっかけ作りを行った。「書く」「話す」活動を中心とした言語活動を行った。	
2	・地域の外部機関とのネットワークを活用し、自己の在り方・生き方をデザインするキャリア教育を計画的に行い、社会的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を図る。	B	・個人面談や面接指導等を積極的に行い、進路希望の実現に取り組む。	学級担任や進路指導担当者との面談を密に行う。また、就職指導員を活用し、希望の実現を図る。【面接指導等の実施回数】	B	卒業予定者と学級担任や進路指導担当者で面談を行い、面接練習も数多く行った。しかし進路未定者も一部あった。	卒業年次において進路未定者に対するフォローアップを充実させる。また次年度卒業生徒に対しては進路ガイダンスを定期的に行い、キャリア教育を推進する。
			・進路ガイダンスやキャリア講演会等を通して生徒に明確な進路目標を持たせる。	進路ガイダンス及びキャリア講演会等を特別活動の重点項目の一つに位置づけ、定期的に開催する。【進学状況、就職内定率】	A	進路ガイダンス及びキャリア講演会を昨年より多く行った。また就労支援事業所の見学に教員を派遣し、理解を深めた。	
			・進路 LHR や個別相談等でサポートステーション和歌山と連携し、生徒の進路意識を高める。	・サポートステーション和歌山と連携し、多面的に生徒をサポートする。【連携内容と回数】	B	進路ガイダンスや居場所事業において、サポステの協力を得ながら生徒をサポートした。	
3	・生徒支援の充実を図り、全教員による組織的な支援と指導を行うことで、生徒の個性に応じた学びの実現に取り組む。	B	・指導方針・生徒の状況等について全教員の共通理解を図り、多様な問題行動に対する適切な指導方法等を組織的に検討していく。	・生徒情報を共有するために、職員会議等で常に情報交換を行うと共に、「個人記録カード」の活用の充実を図る。【個人記録カード活用数】	C	生徒情報の共有がやや不十分な点があった。個人記録カードの入力の呼びかけも少なかったため、活用ができなかった。	生徒情報の共有については、保健記録を有効活用し、職員間の情報共有と併せ遺漏無きように努める。外部機関との連携を引き続き行う。
			・生徒の課題を早期に発見し、登校・授業参加の動機付けのため、支援委員会を開催し、生徒支援の充実を図る。	・支援委員会を定期的に関き、関係機関との連携を図る。	A	支援委員会を定期的に関き、情報共有を図ることができた。アセスメントシートを活用して生徒の支援につなげることができた。	
			・SC・SSW等を更に活用し、関係機関との連携に努め、迅速・適切な対応を図る。	・保護者との連絡、面談や家庭訪問の機会を増やす。【支援委員会開催数、アセスメントシート作成数】	B	和歌山ダルクから講師を招き、講演会を開催した。また通級による指導の現職教育を行い、生徒理解を深めた。	
4	・ICT機器を積極的に活用し、生徒の情報活用能力の向上、教職員の勤務環境の改善及び地域への有用な情報発信を図る。	B	・全教員が日常的にICTを活用し、生徒の学習効果を高める。	・ICTを活用した学習支援を充実させ、学習の質と機会の充実を図る。【学校評価アンケート】	B	ICTを活用した学習支援は充実しているとはいえない。引き続き学習の質と機会の充実を図る必要がある。	ICTの活用を引き続き推進する。各教科での取組が進むよう校内研修を実施する。欠席連絡や予約システム等、利便性の高いシステム作りに努める。
			・教職員の勤務環境を改善するため、ICTを有効活用し、業務の効率化を図る。	・学校と生徒及び保護者間の連絡のデジタル化を推進する。【学校評価アンケート】	A	欠席連絡や生徒連絡でデジタル化が進展した。他にも学校と生徒及び保護者の利便性を高めていく。	
			・有用な情報を発信することで、生徒や家庭、地域との連携を深める。	・本校のHPを活用し、有用な情報を定期的に発信する。【学校評価アンケート】	B	定期的な更新にはやや不十分な点があったが、転編入の面接予約システムを導入し、有用な情報を提供できた。	

学校関係者評価（1月21日実施）

○以下の評価項目について、高い評価をいただいた。

・本校には他校にない特色があるか。

・本校は生徒に対して分かりやすく充実した授業を行っているか。

・本校では、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるため適切な指導が行われているか。

・本校の学校行事等は充実しているか。

・本校では、進路に関する情報提供に努めていると思うか。

・本校では、生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われているか。

・本校では、校舎、校庭、教室の環境美化や整理整頓ができているか。

○以下の評価項目について、次年度に向け改善を要するとの評価をいただいた。

・本校は保護者や地域の方々と連絡・連携がうまくとれているか。

・本校の教育活動に保護者や地域の意見を取り入れているか。

・本校では、生徒が将来社会人として生きていくための取組は十分行われているか。

・本校の生徒会活動や部活動は活発であるか。

・本校の施設・設備が充実しているか。

○学校運営協議会委員より以下の意見をいただいた。

・進路の取組が改善された。

・三部制については学校運営協議会から要望があげられるように進めてほしい。

・支援学校との連携を深めるとよい。

・キャリア教育は大事。コミュカが身につくように。

・人材育成を引き続きよろしく願いたい。

・介護職員初任者研修をしっかりと進めてほしい。

・ICT化を進めてほしい。

・先生方の意識が変わったのが良かった。

・ゼミ生との交流、活動を通して話せるようになることを期待する。